

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念	子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる	各家庭の環境や家族構成などに寄り添いそれに配慮した声掛けを親も子にもしている 子どもの成長を見据えた保育をしている 保護者には様子を見ながら声掛けし、信頼関係を深めるように動めている。		○			概ねできている項目ではあるが、毎年様々な環境の家庭の親子が入所してくるため、信頼関係を築き、必要に応じて支援していく。 月齢や発達に応じて、環境提供をし、子ども達が安心して過ごすことに努めていく。
	園の基本方針	・子ども一人一人の発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を大切に温かく丁寧な保育をする ・安心して子どもを預ける環境を作り、親が自ら子育てを相談したくなるような信頼関係を目指す			○			
	園の目指す子ども像	・よく遊び、よく食べ、よく眠り、健康でたくましい体と心を持つ子ども・友達との関わり、豊かな心を持つ子ども・何にでも意欲的に関わりを持てようとする子ども	・ほぼ毎日戸外へいき、十分に体を動かしたり、夢中になれる遊びの提供をしている ・友達との関わり方を伝える。皆で遊べる環境を提供している		○			
	園の求める保育の視点	・子どもをよく観察し見守りながら必要に応じて援助していく ・子どもの思いに共感しつつも保育者の思いを具体的に丁寧に伝えていく・応答的な関わり大切にしていく	・すぐに声を掛けたり手を出さずに子どもが何をしているか何がしたいかを観察する ・まずは子どもの思いに共感しその後は丁寧に関わっていく		○			
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	常に自分だったらどうか？と考え子どもと接するようにしている		○			時間などを気にするあまり、一斉保育になりがちな場面もある為、今何が大切かを考える必要がある。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できており、個や異年齢の関わりを大切にした保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	「今」さえ良ければいいわけではなく、総合的に先を見据えた保育を展開していくことを心がけている		○			「今」だけではなく、どのように育って欲しいか願を込めて保育していく。また、保育士の思いだけでなく、子どもをよく観察して思いを読み取る。 今日の保育はどうだったかと必ず振り返る。
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつながるよう計画されている	今日の振り返りを必ず記入。子どもの姿やつぶやきから明日の保育を予測し発達を促す保育をしている			○		
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 育ちや発達に考慮した関わりを行っている	0歳児は午前寝が必要な子は午睡する時間を作る クローゼットの下を解放して狭く落ち着ける空間を提供する		○			0歳児は特に午前寝が必要な子がいるため必要に応じて対応していく。また、長時間保育の子もいるため、リラックスできる空間確保や保育士が対応していく。
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	期ごとに子どもの姿から室内環境を変えたり、季節を感じる事ができるよう戸外でも自然遊びを中心に展開している		○			
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	年度初めにマニュアル研修を行い、職員全員が毎年振り返り落とし込んでいる			○		安全管理の項目は全体的にできていないと感じる職員がいたため、マニュアル研修を行い、各職員が自分事として落とし込むようにしていく。また、「想像や、想定」することをし、危機管理を高めていく必要がある。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故につげない	毎日朝の打ち合わせ時にヒヤリハットがあったか職員に聞き出している 職員連絡ノートにメモをし、その場で対策を共有する他、ミーティングで深堀している			○		
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対する知識を伝えている	毎月災害訓練を行っている パート職員を含め順に主になり進めていく 大雨など警報が出そうなときは早めに保護者に伝え意識してもらう声掛けをしている			○		

	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている	毎日、消毒を兼ねて玩具点検をしている		○			玩具が散らかりすぎている場合、とっさの時に障害物となる為注意が必要。整頓を心がける。
保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	年に数回、感染症や熱中症などの勉強会を開き職員全員が参加している			○		訓練や勉強会では実際に起きた時に不安に思う職員が多い。しかし、それらはとても大切なもの
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身につけている	戸外から帰園、トイレ後、食事前などの手洗い、鼻水が出ていたら自ら拭いたり保育士が拭いたりして清潔を保つ声掛けをしている		○			0歳児からの生活習慣はその後につながるもので、引き続き丁寧に関わっていきたい。
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている	季節に合った服装で冬は厚着をし過ぎないよう家庭との連絡を取り合っている		○			
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている	アフスで糧物を育てたり、商店街に散歩に行き色々な食材を見て知る保育をしている		○			食は生きていくうえでとても大切な事なのでたくさん興味を持ってもらえるよう働きかけていく。
		発達に応じた食事のマナーを伝えている	椅子に座って落ち着いて食事ができるよう高さや使いやすさを確認している		○			

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができています	各職員が係の仕事を持ち、責任を持って遂行している		○			職員の人数が少ないのと、園内どこでも互いの存在を身近に感じる事ができるため、引き続き声を掛け合ったり、ノートを見てチームワークを大切にしていきたい。また、自分の係の仕事の遂行をしていく。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている	会議では書記を順に回し皆が集中して参加できるようにしている 発言は偏った人だけにならないよう順に話す 皆が発言しやすいような雰囲気を作っている		○			
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりできている			○			
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者为中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	職員から学びたい内容のアンケートを年度初めに聞き出したり その都度優先順位をつけて研修内容を決めて行っている			○		研修ではあまり難しく考えすぎず、皆が思いを発言できるような雰囲気が大切。誰でも安心して発言できるよう、研修を組み立てていく。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている	キャリアアップ研修に参加し保育の質の向上につながるよう取り入れている			○		
家庭保護者と連携	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している			○			送迎時の保護者対応や、お便り、連絡ノートなどで、子どもの成長や発達を伝えていく。一方通行ではなく互いに子育てをしていく。連絡ノートから、ちょっとしたことでこちらからアクションを掛けて保護者の気持ちに寄り添っていく。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っていけるような取り組みをしている	子どもの可愛い姿や成長などをこまめに保護者に伝えたり、それだけではなくありのままの姿を伝え、保護者と話をしている		○			
（近隣）の連携と学校の	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	年明けには連携園に遊びに行かせてもらい、来年から使う保育室を見せてもらったり、保護者に了承を得て個人の様子を伝えスムーズに対応してもらうよう配慮している			○		連携園とは年に数回交流している。もう少し交流ができればと思うが、なかなか難しい。
地域近隣の連携	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の様々な人と場に関わる機会を大切にしている	あいさつを基本とし、地域の参加できる行事などに関わりを持つようにしている		○			次年度は地域の方が誰でも気軽に相談できる「育